

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立弥生小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

輝く笑顔 弥生っ子
やさしく 助け合う子
よく学び よく考える子
いきいき 活動する子

今年度の指導の重点

【豊かな心】 ・自他ともに大切にし、円滑な人間関係を育成する集団づくり ・道徳的実践力の育成
・コミュニケーション能力の向上
【確かな学力】 ・学ぶ楽しさや学習意欲を喚起する授業づくり ・体験的な学習、問題解決的な学習の定着
・家庭学習の充実
【健やかな体】 ・基本的な生活習慣、運動週間の確立(体力向上) ・食に関する指導の充実
・日常体育の充実と外遊びの奨励、充実 ・危険予知、回避能力の育成

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国

- 「国語A・算数A」ともに、平均正答率が県平均よりやや低い。
- ローマ字を読んだり書いたりする問題の正答率が低い。
- 4. 65+0. 3の末尾がそろっていない計算の正答率が低い。
- 「国語B」は、平均正答率が県平均を上回った。
- 「算数B」は、平均正答率が県平均より低い。
- 国語・算数ともに、無解答率が高い。
- 「記述式」の平均正答率が、県平均よりも低い。

県

- 「国語」の平均正答率は、県平均と同じである。
- 「社会・数学・理科」は、県平均よりも高い。
- 「国語」の漢字の読み書きの平均正答率が県平均よりも低い。
- 「社会・数学・理科」は、活用の設問の正答率が低い。
- 目的や意図に応じて文章で答える問題を苦手とする児童が多い。

【学習状況調査の結果】

○テレビの視聴時間

・1日当たりのテレビ等の視聴2時間以上は、県平均より少ない。

○家庭学習の時間

・1日当たりの家庭学習1時間以上の割合が、県平均を上回った。

○読書時間

・1日当たりの読書時間30分以上の割合が、県平均より少ない。

○あいさつ

・「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」の項目は、県平均よりも高い。

○きまり

・学校のきまりを守っている児童の割合は、県平均を上回った。

○自己有用感

・自分にはよいところがあると思っている児童の割合は、県平均を上回った。

成果と課題

成果

- 自分にはよいところがあると思っている児童の割合が昨年度よりも高い。
- 「学校のきまりを守っていますか」の肯定的児童の割合が全国よりも高い。(本校93.6% 全国91.5%)
- 1日当たりの家庭学習時間が1時間以上の割合が多い。(本校80.5% 全国62.5%)

課題

- 児童の半数近くが、友だちの前で自分の考えや意見を発表することを苦手と感じている(本校48.7% 全国48.2%)
- 学校の授業時間以外に1日当たりの読書時間が30分より少ない割合が多い。(本校67.2% 全国63.5%)
- 国語・算数ともに、無解答率が高い。
- 漢字の読み・書きの正答率が低い。
- 算数Aでは、小数や割合の基本的な問題について理解の差が大きい。

課題に対応した改善方法

- 「自分の考えを持つ、書く、発表する、友だちの発表を聞いて考える、まとめる、振り返る」という岡山型学習指導のスタンダードに沿った授業改善を進める。
- 放課後学習(げんぼ学習)を週1回(毎週金曜日)に行い、基礎・基本の定着を図るとともに、家庭学習を充実させる。
- 朝学習では、曜日ごとに教科を決め、基礎・基本的な内容をくり返し指導するようにする。
- 朝学習や授業の中で、「東書Webライブラリ」を活用して、学びの定着を図る。
- 朝学習や調べ学習等を活用して、学校での読書時間や機会を増やすとともに、家庭での読書習慣の充実にも努める。
- 高学年の算数では、習熟度別指導を行い、個に合った指導の充実を図る。
- 家庭での生活習慣や学習習慣を整えることに大切さについて、学年PTAワークショップ、学年・学級懇談、北陵中ブロック統一の「家庭学習強化週間」等で保護者へ啓発する。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 11月に実施する4年生・5年生の「学力定着状況たしかめテスト」の結果分析
- 学校生活についての全校児童アンケートの結果分析(11月)
- 5年生・6年生を中心に全国学力学習状況調査過去問題の実施

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 全国及び岡山県学力・学習状況調査で、県平均を上回る。
- 家庭学習の時間(学年×10+10)の実施率を80%以上にする。
- 1日30分以上読書をする児童の割合を80%以上にする。